



保健センターだより

仕事をするという事

保健センター所長 小町裕志

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。大学を卒業され、多くの方は社会に出て、いよいよ仕事を始めることになると思います。

私がたずさわっている医療の現場は危機に溢れています。患者間違え、投薬ミス、検体取り違い、検査ミス等々、数え上げたら切りがありません。どこの職場でも同じですが、人が行っていることなので、ミスや間違えはつきものです。もちろん、ミスは発生しないに越したことはありませんが、「ミスは不注意によるものである」という精神論的な観点によるリスク回避はすでに古く、「人間は間違えを起こすものである」との認識から、科学的にミスを最小限にするための仕組みを整えることが重要であり、これは社会ですでに広く実践されています。

しかし、どれだけシステム上の問題を少なくしても、やはりミスをゼロにすることはできません。危機を回避する仕組みを整えることは、当面のところ、あなた方、新社会人の仕事ではありません。それは、職場の上司や会社などの組織全体が考えておくことです。問題はミスをおかし失敗をしたときに、あなた自身はどう対処するかです。それによって、その後には生じる可能性に大きな違いが生じます。ここではこの点について少し述べたいと思います。

仕事は、それをすることで他者から報酬を得るので、中途半端な気持ちではなく、命をかけるくらいの真摯な気持ちが必要です。自分の能力や技術を使うのだから、それに対して代価が支払われるのは当たり前だと思いますが、そこには一生懸命に職務を遂行するという大前提があります。忘れてならないのは、仕事をするという事は、そのような前提が暗黙裏にあるということです。しかしながら、真摯に仕事に取り組んでもミスは起きることがあります。

ミスが生じる場面は千差万別ではありますが、その対処方法には、共通する大切なことがあり

ます。それは、直面した事態に対して、冷静沈着に、かつ、正直であることです。これはとても誠実に見えます。このことが、その後、成功に転じるか、さらに失敗の深淵に沈んでいくかを分けます。

先ほども述べたように、仕事には、どんなにリスク・マネジメントを施していても、ミスをして失敗することはあります。もちろん、ミスせずに成功することもあります。大事なことは、失敗しても成功してもそれが自分の力だと認識することです。仲間のせいでもないし、上司のせいでもなく、単純に自分のせいなのです。失敗した場合でも逃げ腰になってはいけません。ここは自分の責任として真っ正面から堂々と受けとめる必要があります。うまくいったら自分の能力が優れていたためであり、失敗したらそれは自分の能力が至らなかったためです。自分に対しても他者に対しても公明正大であることです。

失敗したからといってそれほど落ち込むこともありません。失敗したらよく反省して努力することです。失敗から得るものは成功から得るものよりもはるかに多いのです。ただし、失敗し続けられないことです。そして、成功した場合にも、それはやはり自分の能力のお陰です。しかし、いずれの場合にも、大切なことは謙虚さです。とくに成功した場合には、謙虚であることが要求されます。成功したら、自分の能力が高かったのだと思って、自信を持つことはとても大事なことです。この社会では自分一人でできることは何一つありません。傲慢にならずに謙虚さを持ち続けていることが肝要です。それが、自分もそして相手や周囲も幸せにする方法です。そして、それができる人は、自分のしていることや自分の生き様に自信と誇りを持っている人です。どうかそのような社会人としての人生を歩んでいただきたいと思います。ご活躍をお祈りいたします。